

沖縄語の汎用漢字(第1次案)(2枚)

2007年7月7日

沖縄語研究家 船津好明

本紙は、筆者が沖縄語の公刊物等の中で目にした漢字で、

共通語と音韻上の関係はないが、意味が関係していて、沖縄語用の漢字としてよく使われているもの
沖縄語の地名、人名の全部または一部として用いられているもの
共通語の伝統、慣用の漢字または当て字と同じ漢字

のうち、将来も使われそうなものを拾い集めたものです。漢字の読みは一字一読が原則ですが、原則にあてはまらず、2字以上まとめて読ませるものがあります。沖縄語、共通語の双方にあり、使われ始めた時期の前後関係は分かりません。沖縄語は、共通語と深い関係にありますが、共通語の中で考えるべきではなく、沖縄語の中で考えるべきです。

沖縄語の汎用漢字例(第1次案)

(50音順)

言葉	漢字	区分	備考
あがり	あがり 東		地名、人名
いち	いち 何時		「何時」(いつ)は共通語の当て字
ぐしく	ぐしく 城		
くじゅ	くじゅ 去年		「こぞ」は共通語の古語
くち	くち 東風		「こち」は共通語の古語
じょー	じょー 門		
たー	たー 達		
ちぬー	ちぬー 昨日		「昨日」(きのう)は共通語の当て字
ちゃー	ちゃー 達		
ちゅー	ちゅー 今日		「今日」(きょう)は共通語の当て字

言葉	漢字	区分	備考
とうじ	と ^う じ ^じ 妻		「夫」と対、「とうじ」は共通語の古語
なま	な ^ま 今		
ふえー	ふ ^{えー} 南風、 ^{ふ^{えー}} 南		「はえ」は共通語の古語
まー	ま ^ー 何処		「何処」(どこ)は共通語の当て字
まぎさん	ま ^ぎ 大さん		「く ^ー 小さん」と対
まやー	ま ^{やー} 猫		
みーとう	み ^ー と ^う 夫婦		「夫婦」(めおと)は共通語の当て字
やまと	や ^ま と ^う 大和		「大和」(やまと)は共通語の当て字
みきが	み ^き 男		「みなく」と対

解説

1、一字一読とは

一つの漢字には読み、意味とも複数ある場合がありますが、具体的文脈では、読み、意味とも一通りになるのが普通です。例えば「平生」はこの場合「平」、「生」と一字ずつに分けても、一字一読が保たれていて、「平生」は「ふいーじー」などと読まれます。

2、多字一読とは

複数の漢字の文字列において、漢字を一字ずつ読むのではなく、複数まとめて読むものが昔からあります。例えば「何時」を「いち」と読むのは、「何」を「い」、「時」を「ち」と分けて読んでいるものではありません。「東風」(くち)も多字一読です。これらの読み方は過去の名残で、廃止することは困難です。

沖縄語の教育のために、この種の多字一読の漢字列を現在新たに造り出すことは、好ましいことではありません。

(参考)共通語では過去にこの種の書き方がたくさんありました。紫陽花、^{あじさい}万年青^{おもと}など。現在このような多字一読の漢字を増やすことは、共通語でも好ましくありません。

(以上)

照会先：〒1870002 東京都小平市花小金井2-6-1 船津好明

Tel/Fax 042-467-1273

Email funatsu@mvf.biglobe.ne.jp